



「えこっパー」の売り上げの一部を、北九州市 PTA 協議会に寄付

もったいない総研が企画・制作したリサイクル・トイレットペーパー「北九州紙えこっパー」は、2001年4月より販売されており、売上げの一部（1パックにつき1円）を、子供の環境教育の一助として北九州市 PTA 協議会に寄付しています。2007年度販売実績は190,904パックでしたが、大分製紙（株）殿のご協力により、追加寄付を含め寄付金20万円を、2008年6月7日（土）開催の PTA 協議会総会にて贈呈しました。



年長者研修大学校での講義

北九州市立年長者研修大学校の周望学舎では、高齢者を対象として各種講座を実施しています。昨年に引き続き、「暮らしと環境」コースにおいて講義を行い、もったいない総研・「えこっパー」の活動と平成20年度の「もったいない総研」の活動状況を紹介しました。



食と農のプロジェクト

地産地消の重要性が叫ばれるようになりました。その背景には、食の偽装問題などの報道をきっかけに、顔の見えない食材への不安をいだと同時に、海外依存率が高く食の自給率が低いという現実を私たち消費者が知るところになったことにあるのではないのでしょうか。

食べることは生きていく上で欠くことのできない大変重要なことであるにも関わらず、安さや便利さばかりに目がいき、食に対して無頓着であったことを反省しなければならない時期にきているように思います。

【食と農のプロジェクト】では、食を支えてくれる地元の農業というものに、まずは着目したいと思いました。

農業は食を支えてくれるだけでなく、田畑はこのまちの景観を豊かにし、子どもたちの情操教育にも大きく貢献する重要なものだと考えたからです。

地元の食材を積極的に楽しみ、親しみ、環境に貢献しながら、地元食文化を受け継いでいきたい。子どもたちの食育を進めたい。そして、北九州の食と農の向上を図っていきたい。そんな気持ちで【食と農のプロジェクト】はスタートします。

◎ プロジェクトテーマ

食のロハス（地元産品を大切にできる持続可能な「食」のスタイル）
北九州の食と農の向上充実。

- 環 境：地産地消で、地元の農産物を楽しみフードマイレージを減らそう！
- 食文化：顔の見える食材を食べ、地元食文化を受け継ごう！
- 時 速：農業に親しみ、楽しみ、自給率を高めよう！

◎ 活動基本方針

オーガニック農園を中心に、北九州の農業と市民、レストラン、ショップ、ネットワーク団体をつなぎ、相乗効果の中で、新たな活動を加え、この取り組みを伝えていながら、北九州の食と農の向上を図っていきます。

